

県内で約 9 年ぶりとなる麻しんの患者発生がありました。

県内で麻しん（はしか）の患者発生があったという情報を得て、浜小の子どもたちの予防接種歴を保健調査票から調べました。Ⅰ期、Ⅱ期ともに予防接種を受けている人は120人（81.6%）Ⅱ期だけを受けている人は23人（15.6%）受けていない人は4人（2.8%）です。保健調査票からの調査なので、記録忘れの保護者もおられるかもしれません。家庭で、もう一度確認してください。麻しんは、感染力が非常に強いです。麻しんを発症された方は、下記の施設を利用されています。連休中に、有田の陶器市に行かれた方も多と思います。心当たりにある方で、発熱などの症状がある方は、すぐに病院受診をしてください。

県からの情報提供です。参考にしてください。

当該患者が利用した下記の施設等において、当該患者と接触された方は、麻しんに感染している可能性があることから、広く情報提供するものです。

下記の施設等を利用された方で、施設等を利用した後、約10日～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡してから受診していただくようお願いいたします。また、受診の際は、公共交通機関の利用は控えてください。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条において求められているように、患者の人権尊重には御配慮、御理解いただきますようお願いいたします。

1 麻しん患者が利用した施設等のうち、接触者が特定できない施設等

患者が利用した時間帯	施設等	所在地
4月28日（日曜日） 午後4時から午後9時まで ^{※1}	モラージュ佐賀	佐賀市
5月1日（水曜日） 午後2時30分から午後4時まで	第116回有田陶器市 （有田町東出張所 ご当地グルメ会場周辺）	有田町
5月3日（金曜日） 午後5時45分から午後8時まで ^{※1}	西松屋新アクロスプラザ武雄店 （トイレ利用）	武雄市
5月3日（金曜日） 午後6時から午後9時まで ^{※1}	スシロー武雄店	武雄市

※1 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされているので、患者の施設滞在時間にウイルスの生存期間の2時間を加味した時間帯です。この時間帯以外に利用された場合は、感染の心配はありません。

2 県民の皆様へ

麻しんは、感染すると約10日～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎を発症することもあります。気になる症状があったら、事前に医療機関に連絡してから受診していただきますようお願いします。また、麻しんの定期の予防接種(第1期:1歳、第2期:小学校入学前)がまだの方は早めに予防接種を受けましょう。

○麻しんの症状について

麻しんに感染すると約10日～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。その他の合併症として、10万人に1人程度と頻度は高くないものの、麻しんウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。

○感染予防について

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しんの予防接種が最も有効な予防方法といえます。麻しんの定期の予防接種(第1期:1歳、第2期:小学校入学前)がまだの方は早めに予防接種を受けましょう。なお、ワクチン1回接種による免疫獲得率は93～95%以上、2回接種による免疫獲得率は97～99%以上とされています。

○麻しんの発生件数(令和元年(2019年)5月6日現在)

(単位:人)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
全国	447	439	283	229	462	35	165	186	279	406
佐賀	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※2 全国は、平成31年(2019年)4月14日現在。